



未来にタイムスリップ!

大信地域振興計画

目次

<u>1 基本方針</u>	1
<u>2 大信地域の概要</u>	2
(1) 位置・地勢.....	2
(2) 歴史・文化・自然.....	2
(3) データで見る大信地域の姿（国勢調査又は市企画政策課調べ）.....	3
<u>3 大信地域の強みと課題</u>	10
(1) 強み.....	10
(2) 課題.....	11
<u>4 地域における基本構想（大信地域の将来像）</u>	12
<u>5 事業計画（前期過疎計画等に盛り込む大信地域の主な事業）</u>	14
<u>6 事業計画（後期過疎計画に向けて検討をしていく大信地域の主な事業）</u>	18
<u>7 コラム（白河市立大信中学校）</u>	20

■表紙の絵

あなたの夢は、何ですか？

おとなになったら、何になりたいですか？

大信小学校の3年生に、将来の夢を描いていただきました。

大戸 美桜さん

武藤 穂乃花さん

駒木 寛大さん

円谷 華奏さん

大戸 忠明さん

菅森 結太さん

大塚 彩乃さん

佐藤 愛莉さん

高宮 愛月さん

生田目 絢悟さん

小磯 心結さん

岡部 莉糸さん

小沼 真優さん

佐藤 乃愛さん

永山 莉良さん

十文字 未希さん

菅森 朔歩さん

岡部 莉子さん

小松 優斗さん

黒川 颯さん

菊地 颯人さん

近内 花乃彩さん

大竹 陽莉さん

渡辺 緋華里さん

1 基本方針

平成17年11月7日に、地理的、歴史的にもつながりが深く、生活圏・経済圏も一体化していた白河市・表郷村・大信村・東村の4市村が合併し、新「白河市」が誕生しました。そして合併以降、行財政基盤の強化を図るとともに、産業の振興や地域の均衡ある発展等を重視し、各地域の特徴を活かした地域振興を図ってきました。

しかしながら、人口減少を抑えることは難しく、地域コミュニティをはじめとした多岐にわたる分野での高齢化や後継者不足、さらには若い世代、特に女性の定住促進などが大きな課題として顕在化してきています。そしてここ大信地域も、人口減少が急速に進んだことにより、令和4年4月に過疎地域の指定を受けることとなりました。

人口減少は、非婚化・晩婚化及び出生率の低下などを要因とし、日本全体で進行している現象ですが、大都市圏への人口偏在を背景に、地方においては急速に進行しており、本市においても例外ではなく、何らかの方策を講ずる必要があります。

人口減少は、産業・福祉・医療・教育などあらゆる分野へ影響を及ぼしますが、特に生産年齢人口の減少による経済の停滞や高齢化を支える仕組みの行き詰まりなどへの影響が懸念されます。また、社会資本や生活環境及び自然環境の維持管理、地域社会を支えるコミュニティの存続などが、担い手不足により困難になることが予想されます。

そのため、女性・高齢者等の就労支援や活躍の場の創出、人口減少に対応する地域社会の仕組みづくり、効率的・効果的な社会資本整備及び空き家や空き店舗、空地などの既存ストックを活用したまちづくりなど、持続可能な社会の構築に取り組んでいきます。

また一方で、コロナ禍を契機として、疫病や災害等の大都市のリスクが顕在化するとともに、デジタル化の進展等により「転職なき移住」が可能となる中、首都圏等に在住の若い世代の方々が地方への移住に関心を寄せており、今後、地方への人の流れが本格化していくものと期待されます。

とりわけ、本市は、首都圏からの近接性や交通の利便性などの地理的優位性、さらには歴史や文化、自然など、豊かな地域資源を有していることから、そういった固有の強みや特性を最大限に活かし、多くの方々が住んでみたい、住み続けたいと思えるようなまちづくりを進めていきます。具体的には、「白河市総合計画に掲げる基本目標」を基に、「地域課題の解消を目的としたコミュニティビジネスの支援」、「地域医療・介護体制の充実」、「地域や企業を含めた子育て環境の充実」、「若者や女性の多様な働き方支援」、「デジタル社会における総合的な人材育成」等に力を入れていきます。加えて、地域の特色に配慮したまちづくりを進めるとともに、アフターコロナの社会を見据え、高度な情報技術を活用し、生活利便性の向上を図りながらも、直接的な人と人とのつながりを重視する「地域の持続的発展に向けた施策」に取り組んでいきます。

2 大信地域の概要

(1) 位置・地勢

大信地域は、白河市の北部に位置し、面積は80,77km²で、そのうちの約73%を山林が占めています。

また、地域の西部には、美しい稜線を描いてそびえる権太倉山や手つかずの雄大な自然が残り、阿武隈川水系の隈戸川・外面川が中央部を西から東へと貫流しています。その清らかな水が豊かな土をつくり、食味の良い米を育てています。

さらに、国道294号が北は会津方面、南は本市中心部へと貫き、東西には東北自動車道矢吹インターチェンジと聖ヶ岩ビジターセンターとを結ぶ主要地方道矢吹天栄線が走っています。各地を結ぶそれらの交通の利便性などから地理的優位性も高く、今後、より一層評価されるべき潜在力を持っている地域であると言えます。



(2) 歴史・文化・自然

この地で暮らす人々の心の真ん中にいつも存在している深い緑が連なった美しい山々と、その裾野に広がる実り豊かな田園。

この日本の原風景とも言える飾り気のない大地を、大信地域出身の芥川賞作家「中山義秀」は、「心やすらぐ桃源郷」、「世界中で唯一の一番懐かしい天地」などと称えました。

また、会津へ続く交通の要所としても知られたこの地は、古くから農業が盛んであり、気骨あふれる先人たちは広く田畑を拓き、さらに住民同士の話し合いにより、自らの手で県内に先駆け圃場整備を行う(※)など、よい米づくりを地域ぐるみで目指してきました。(※：明治38年の下小屋地区における取り組み)

今でも先進的農業に挑戦すると同時に、五穀豊穡を祈る伝統行事を地域で大切に守り伝えていきます。

一方、近年においては、東北自動車道との近接性、交通の利便性から多くの優良企業が立地しており、地域の雇用拡大と所得の向上に寄与してきたところです。

また、大信村の時代に整備した二つのニュータウンには、心休まる懐かしい風景を求めて多くの方が移り住み、今に至っています。

(3) データで見る大信地域の姿 (国勢調査又は市企画政策課調べ)

人 口

大信地域(旧大信村)の人口が、平成7年から令和2年の25年間で、5,014人から3,786人(共に国勢調査データ)へと約24%減少したことを受け、令和4年4月1日に過疎地域の指定を受けました。

人口・世帯数の推移

年	人 口 数 (人)	世 帯 数 (世 帯)
平成 7 年	5, 0 1 4	1, 1 3 0
平成12年	4, 8 8 6	1, 1 8 2
平成17年	4, 7 8 9	1, 1 7 8
平成22年	4, 4 5 1	1, 1 6 0
平成27年	4, 2 1 7	1, 1 5 4
令和 2 年	3, 7 8 6	1, 1 1 5
減 少 数	▲1, 2 2 8	▲1 5
減 少 率 (%)	▲2 4. 5	▲1. 3

※減少数、減少率ともに平成7年と令和2年の差

人口減少は、年少層から生産年齢層まで幅広く及んでいますが、特に0～5歳と、その親世代である23～29歳の年齢に、市外への転出という形で顕著に表れています。

年齢層区分ごとの人口推移

年齢層区分	平成18年(人)	令和4年(人)	増減数(人)	増減率(%)
0～5歳	305	116	▲189	▲62.0
6～17歳	627	394	▲233	▲37.2
18～22歳	299	185	▲114	▲38.1
23～29歳	454	177	▲277	▲61.0
30～39歳	493	377	▲116	▲23.5
40～49歳	606	477	▲129	▲21.3
50～59歳	774	398	▲376	▲48.6
60～69歳	463	649	186	40.2
70歳以上	923	1,017	94	10.2
合計	4,944	3,790	▲1,154	▲23.3

一方、世帯数は横ばいで推移しており、人口の減少が続いている傍らで、二世帯住宅化や親との近居による世帯分離も進んでいるものと考えられます。

字別の人口推移を見ると、総じて減少している中、増見地区については、市営住宅からの転居の影響もあり、減少数、減少率ともに大きい状況です。

田園町府については、大信村時代に分譲したニュータウンへの居住が進んだことで、唯一、人口が増加しています。

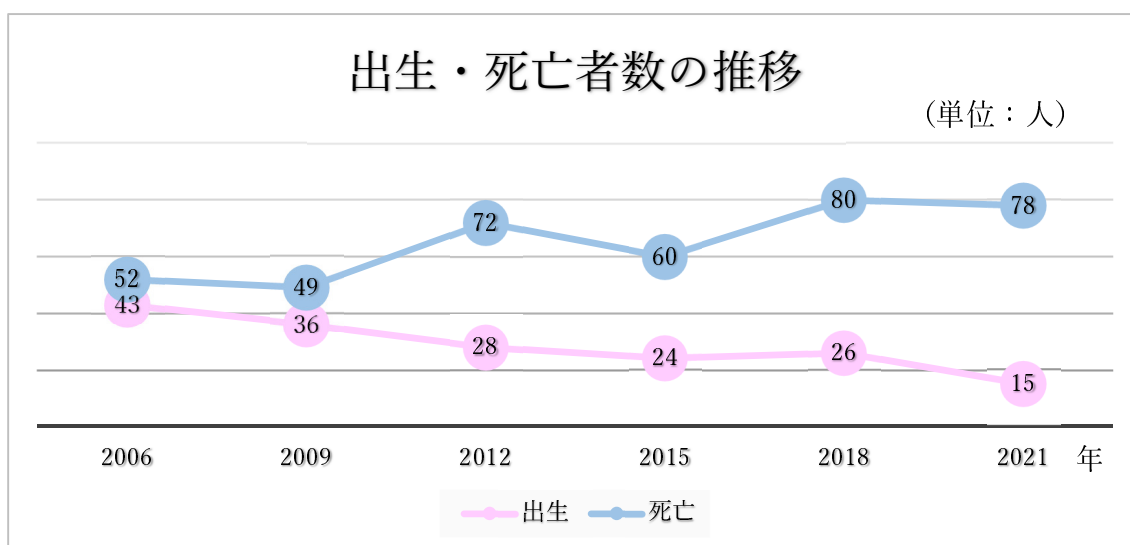
地区ごとの人口推移

地区	平成18年(人)	令和4年(人)	増減数(人)	増減率(%)
増見	1,213	797	▲416	▲34.3
隈戸	832	567	▲265	▲31.9
町屋	308	210	▲98	▲31.8
豊地	228	161	▲67	▲29.4
下新城	610	477	▲133	▲21.8
下小屋	726	592	▲134	▲18.5
上新城	181	153	▲28	▲15.5
中新城	673	598	▲75	▲11.1
田園町府	173	235	62	35.8

大信地域の人口減少の要因は、大きく「自然減の進行」と「転出超過」に分けられます。

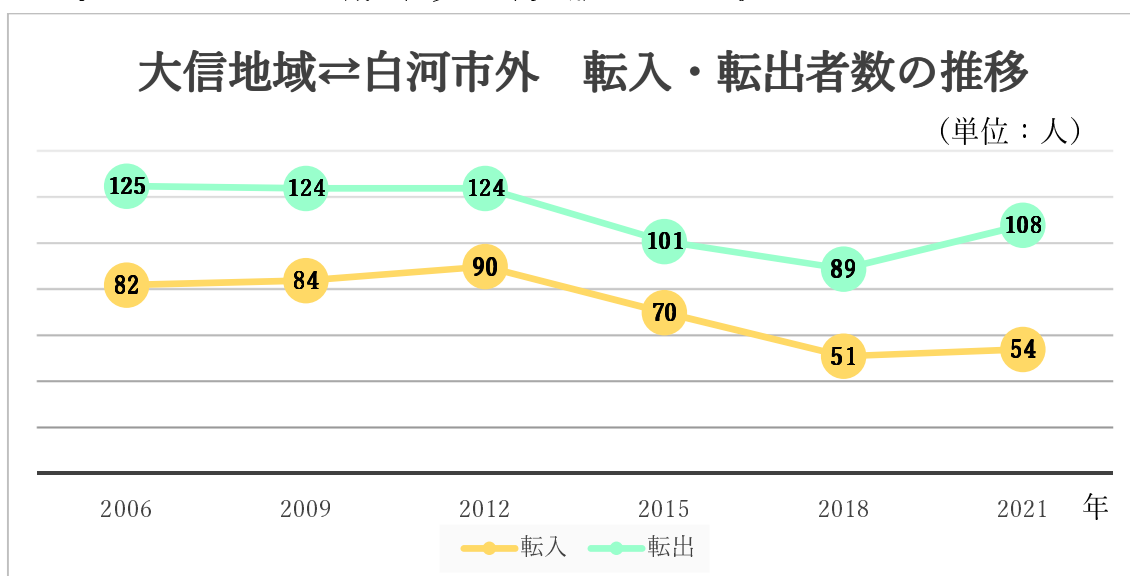
高齢化によって死亡者数が増える一方で、生まれる子どもの数が減少し続けており、自然減の数が年々増加しています。

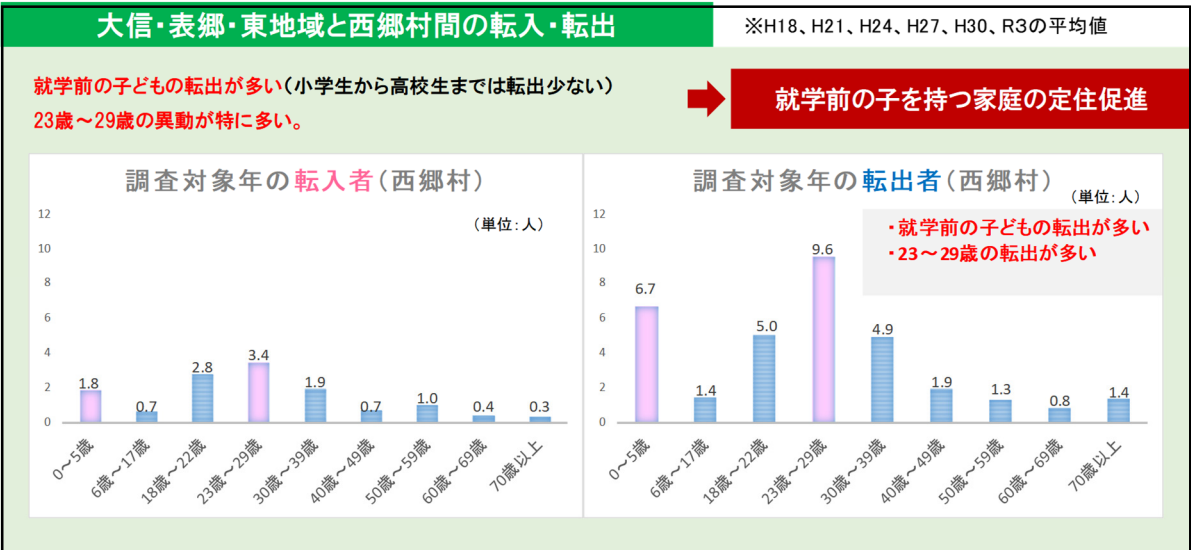
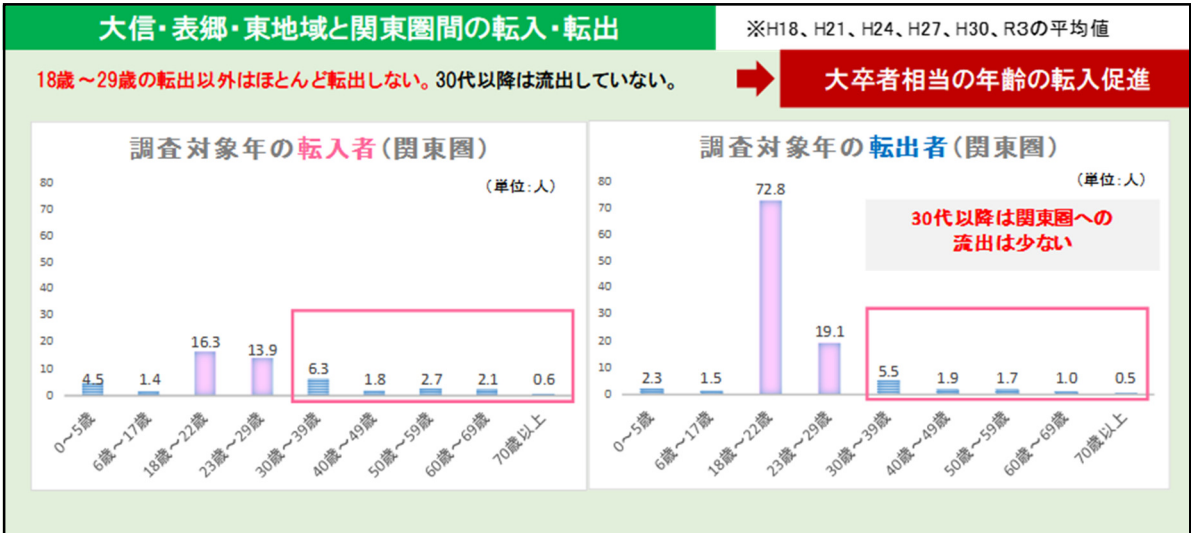
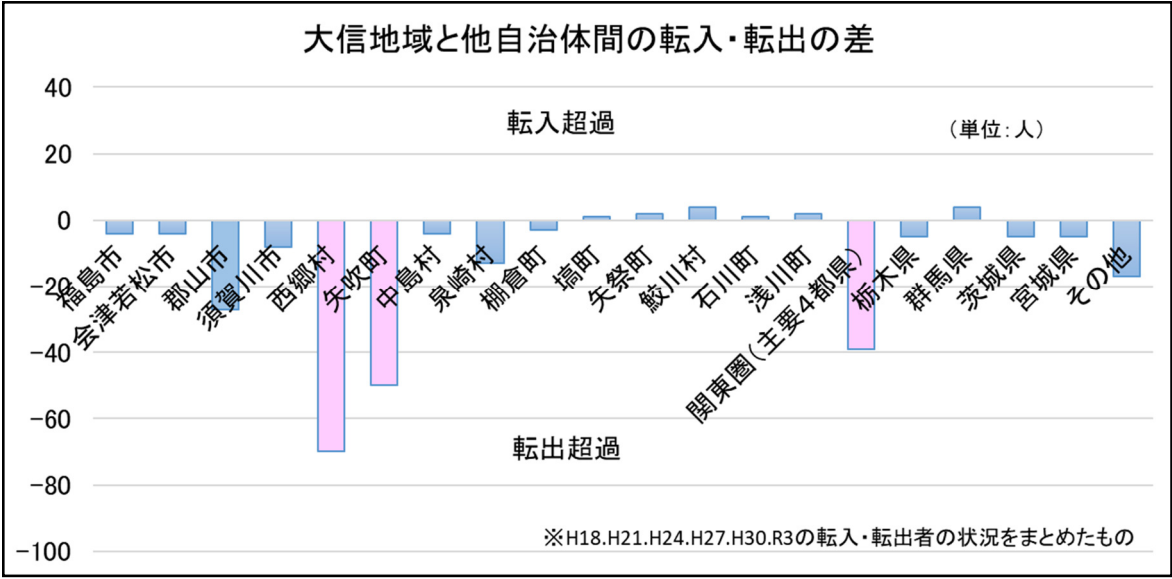
少子化は、親世代の人口が既に減少（親世代の出生数の減及び転出による。）していることも大きく影響しているものと考えられます。



他方、継続的に大信地域から市外へ転出する人の数が転入者数を上回っています。特に、近隣の西郷村や矢吹町に加え、関東圏への転出超過が顕著に見られます。

表郷地域・東地域も西郷村や関東圏へ転出する傾向は同様であり、中でも西郷村へは、0～5歳とその親世代の23～29歳が、関東圏へは、進学・就職のタイミングと考えられる18～22歳が、多く白河を離れています。





また、大信地域の人口減少については、男女間で大きな差がないことも特徴の一つです。

大信地域の男女別人口の推移

年齢層区分	男女別	平成18年(人)	令和4年(人)	増減数(人)	増減率(%)
0～5歳	男	163	58	▲105	▲64.4
	女	142	58	▲84	▲59.2
6～17歳	男	330	209	▲121	▲36.7
	女	297	185	▲112	▲37.7
18～22歳	男	163	102	▲61	▲37.4
	女	136	83	▲53	▲39.0
23～29歳	男	252	97	▲155	▲61.5
	女	202	80	▲122	▲60.4
30～39歳	男	255	201	▲54	▲21.2
	女	238	176	▲62	▲26.1
40～49歳	男	301	248	▲53	▲17.6
	女	305	229	▲76	▲24.9
50～59歳	男	423	209	▲214	▲50.6
	女	351	189	▲162	▲46.2
60～69歳	男	242	333	91	37.6
	女	221	316	95	43.0
70歳以上	男	372	446	74	19.9
	女	551	571	20	3.6
合計	男	2,501	1,903	▲598	▲23.9
	女	2,443	1,887	▲556	▲22.8

さらに、近年全国的に若い世代の都市部への転出超過がクローズアップされていますが、大信地域においては、転出超過による社会減よりも、自然減の方が増えてきている状況にあります。

就業状況

地域内及び周辺に多くの優良企業が立地していることもあり、会社勤務をしながら稲作に従事する兼業農家が増えていますが、古くから伝わってきた進取の精神で、認定農業者になった方が多いことも特徴です。

地目等の状況

(現況地目分析)

宅地	田畑	山林	原野	その他	合計	(km ²)		(m ²)	
						地域人口当田畑面積	田畑割合 (%)	山林割合 (%)	山林割合 (%)
1.97	9.98	58.83	1.95	8.04	80.77	2,633	12.4	72.8	

大信地域に占める山林は約73%と広く、その分農地は約12%、宅地は2.4%と、市内他地域に比べて少ない状況です。しかしながら、農地については地域人口当たりの面積で比較すると、表郷や東地域とほぼ変わらない広さを有しています。

このように手つかずの自然の資源に恵まれる一方、道路幅員の狭さや、山あいにおける通信環境の悪さなどのマイナスの側面もあります。

また、医療機関や商業施設から離れた集落も多いことから、車を運転できない方にとっては、生活の中で不便さを感じることも多くなります。

気候の状況

冬期においては寒さが厳しく、国道294号から西部に進むにつれ積雪が深くなり、また路面の凍結も頻繁に発生します。

他の季節の気候は比較的穏やかですが、平成10年の8.27災害では降り続いた雨により隈戸川が氾濫し、甚大な被害が発生しました。

近年は、短時間に集中して狭い範囲で雨が降ることが多くなってきています。

地域の資源

自然そのものや、その自然と共生するゴルフ場、キャンプ場などのアクティビティ施設、人の手によって活かし守られてきた里山、豊かな食を育む田園、元気な子どもたち、ここで働く人々、利用価値の高い遊休地や施設など、大信の全てが地域の宝です。

① 雄大な自然、各種施設



② 盛んな農業 と ひじりん館



③ 大信の幸



④ 伝統・文化



3 大信地域の強みと課題

大信地域活性化協議会の委員と意見を交わして、大信地域の持つ強みと課題の両面について、掘り起こしを行いました。

その主な内容は、次のとおりです。

① 強み

【暮らしと人】

- ・人が多くなく、生活環境が静かである。
- ・暮らしの空間や景色がのどかで、ほっこりしている。
- ・人は一見閉鎖的であるが、心が通じ合えば快く協力してくれる。
- ・顔見知りが多く、人付き合いが温かい。
- ・人と人とのネットワークが豊富なので、困った時に相談しやすい。
- ・高速交通網へのアクセスが非常に良い。
- ・「車を運転することができさえすれば」、生活の不便さはない。
- ・暮らしに必要な生活インフラは、そろっている。
- ・長く暮らせば暮らすほど、不便さは感じられなくなる。

【自然環境】

- ・聖ヶ岩や権太倉山などの雄大な自然に囲まれている。
- ・また、これらが大信地域の住民にとって、シンボリック的存在として、心に根付いている。
- ・谷あいを隈戸川、外面川が阿武隈川に向かって流れ、豊穡な大地が広がっている。

【子育て・教育】

- ・祖父母との同居等が多いため、子どもを見てもらいやすい環境にある。
- ・手つかずの自然が豊富であり、子どもたちの個性を伸ばすことのできる環境にある。

【地域資源】

- ・聖ヶ岩や権太倉山などの自然、清らかな水、ゴルフ場、里山の風景、食味豊かな米、伝統的地域行事など、足元の資源が豊富である。

【農業】

- ・早くに圃場整備に着手しているため、土の質が良く、米の食味値も高い傾向にある。
- ・新規作物を先駆的に導入している。
- ・働く場所が近隣に豊富なため、兼業農家が多い。

② 大信地域の課題

【暮らしと人】

- ・車を運転できない人にとっては、不便な面が多い。
(特に車を持たない若い世代が、「欲しいものを好きなときに買えない」ことは、暮らしにくさとして印象付けてしまう。)
- ・進学のために転出した子どもたちが戻ってこない。
- ・一人暮らしの老人が増えており、災害等有事の際の支援体制に不安を感じる。
- ・以前に整備した公園等の管理が行き届かず、使いづらい状況にある。
- ・朝夕の通勤時間帯の交通量が著しく多く、主要幹線への進入が不便である。

【自然環境】

- ・冬は寒さが厳しく、非常に雪深い。
- ・豪雨の際、沢が氾濫し、土砂の流出による道路の寸断、住宅・農地への流入などの被害が発生している。
- ・山林を切り開きながらの太陽光パネル設置が進んでいるため、自然や動物との共生のバランスが崩れてきていると感じる。
- ・恒常的ではないが、風が強い。

【子育て・教育】

- ・子どもの預かりサービスや相談体制が弱いため、祖父母と同・近居以外の家庭に対しては、暮らしにくさを感じさせてしまう。
- ・子どもや子育て世代が、ふらっと立ち寄れて話をできるような場所（公園や商業施設）が少ない。
- ・出産や子どもの病院通いなど、気が急く際には不便さを感じる時がある。
- ・子どもの数が減っているため、中学校の部活で試合ができるだけの人数が集まらない。
- ・既存の子ども用遊具の対象年齢が限定的であり、伸び伸びと遊ばせることができないことがある。

【地域資源】

- ・聖ヶ岩ビジターセンターまでの道が非常に狭く、気軽に行くことができない。
- ・恵まれた地域資源の情報を対外的に力強く発信できていない。
- ・魅力ある遊休地や空き施設を活かしきれていない。
- ・ゴルフ場が冬季休業し、インターネットの環境も整っていない。

【農業】

- ・後継者の不足が進んでいる。
- ・農業従事者の高齢化の進行が止まらない。
- ・地域ブランドと言えるような特産品がない。
- ・新規就農者への支援が少ない。

4 大信地域における基本構想（大信地域の将来像）

手つかずの自然、里山の空間、地域資源、生業、そして進取の気性に富む人々。

まさに大信地域は、「世界中で唯一の一番懐かしい天地」です。

そして、ここでの暮らしには、「一人ひとりがそれぞれに人生の主演である」ことを実感できる強みがあります。

しかし、都市の利便性や可能性、華やかさを求め、特に若い世代や女性の流出が続いてきました。

過疎地域の指定を受けた今、私たちはこの人口減少と向き合いながら地域の振興を図り、より一層、暮らしやすさを高めていかなければなりません。

そのためには、データや地域の方々の思いを通し、あらためて顕在化した優位性を活かしながら、また同時に課題を乗り越えながら、今一度、身近過ぎて見失いがちな大信地域の強みを再認識し、伸ばしていくことがとても重要です。

このことから

目指す大信地域の将来像

愛着と誇りに満ち、

一人ひとりが主演のまほろばの里

を大信地域の将来像として掲げ、主に次の3つの視点で各種事業を推進し、地域づくりを支えていきます。

① 大信ならではの若者・女性の定住促進

のどかな生活環境、温かな人づきあい、雄大な自然、首都圏へのアクセスの良さなど大信地域の強みのほか、仕事・農業、買い物・医療・教育環境といった日常の情報を発信するなど、若者・女性に地域の魅力がもっと届くような施策を講じ、移住・定住への不安解消を図っていきます。

② 地域資源のフル活用

聖ヶ岩ふるさとの森や白河ゴルフ倶楽部等のアクティビティ施設のほか、大信地域の農の営みや豊かな食など、地域の資源をより一層活かすことができるよう、民間事業者との対話も大切にしながら取り組み、交流人口の増加を目指していきます。

③ 豊かさを実感できるふるさとづくり

大信地域での全ての世代の暮らしやすさを高めるため、道路・水路整備や除雪、消防、子育て支援、高齢者等の移動手段の確保、日常の情報発信の工夫など生活に密着した対策を推進するほか、地域での交流を深めるためのイベント等を引き続き開催していきます。

また、過疎地域であるからこそ、人とのつながりを大切にする取り組みを推進していきます。

そして、地域ぐるみで様々な取り組みを行う際の合言葉は、

取り組みの合言葉

自分たちが住んでいて楽しいことが一番！！

です。

5 事業計画（前期過疎計画等に盛り込む大信地域の主な事業）

※事業名の後ろの（ ）内は、白河市過疎地域持続的発展計画上で位置づけた分野

大信ならではの若者・女性の定住促進に係る事業

・暮らし体験住宅整備事業（移住・定住・地域間交流の促進、人材育成）

地方移住に関心を寄せている方を対象に、首都圏との近接性や、豊かな自然環境でのありのままの大信暮らしを体験してもらうため、「暮らし体験住宅」を整備し、「転職なき移住」を推進する。

その整備に当たっては、地域の空き家を活用し、インターネット環境を整えるなど必要な改修を施すこととする。

・過疎地域空き家等活用事業（移住・定住・地域間交流の促進、人材育成）

空き家バンクの対象を住宅専用から、事業拠点、農業拠点としての活用も可能となるよう拡大し、利用を促進する。

また、その成功事例をモデルケースとして発信することで、移住者や関係人口等を増加させ地域コミュニティの活性化を図る。

・農業人材確保・育成事業（産業の振興）

農業の担い手不足が見込まれることから、大信地域への就農希望者の呼び込みや経営継承の推進、農業に関する交流人口の増加に取り組み、地域農業の持続と新たな担い手による発展に向けて支援する。

・持続可能な農業推進事業（産業の振興）

豊かな自然を守りつつ農業の担い手不足を解消するため、農作業の効率化・省力化に向けたスマート農業等の技術を活用しながら、環境に配慮した栽培を支援し、持続的な農業生産を実現する。

また、その成功事例をモデルケースとして広くPRすることで、新たな人材の確保に努める。

地域資源のフル活用

に係る事業

・ サイン表示設置事業 (移住・定住・地域間交流の促進、人材育成)

地域内各所に大信の主要拠点（ひじりん館、中山義秀記念文学館、白河ゴルフ倶楽部、聖ヶ岩ふるさとの森ほか）を示すサイン表示を設置することにより、円滑に人の流れを誘導し、来訪者の期待感を高める。

・ ゴルフでつなぐ地域資源ネットワーク化事業 (移住・定住・地域間交流の促進、人材育成)

仕事と休暇の両方の充実を目指し、白河ゴルフ倶楽部において wifi 環境や会議スペースの整備を進め、ゴルファーケーションを推進する。

また、小中学生向けのゴルフ体験事業や、ゴルフ場がクローズとなる期間を活用した冬を楽しむアクティビティの実施を検討し、交流人口の増加、地域活性化を図っていく。

・ 自然の恵み（農作物）オーナー制導入支援事業 (移住・定住・地域間交流の促進、人材育成)

健康や食育、食を中心とした環境教育などといった社会的ニーズの高まりを捉え、地元農家と都市住民とのマッチングを図るとともに、都心にいながらの農作物の成長観察や、実際の収穫体験などが可能なオーナー制を実施しようとする生産者に対し、初期投資費用を補助する。

・ 農家民泊導入支援事業 (移住・定住・地域間交流の促進、人材育成)

農家民泊を実施しようとする生産者に対し、初期投資費用を補助する。

・ 聖ヶ岩ふるさとの森満喫プロジェクト事業(田ノ沢地区森林景観整備事業) (産業の振興)

聖ヶ岩ふるさとの森ビジターセンターまでの道路が狭く、運転のしづらさが課題となっていることから、道路拡幅、対向車接近警告表示灯の設置及び蓋なし側溝の蓋掛け等を、県に対し継続的に要望する。

また、田ノ沢ダム跡地が家族連れで賑わうような拠点となるよう、親しまれる公園整備に向けた基本構想を策定する。

・ 廃校舎利活用事業 (その他地域の持続的発展に関し必要な事項)

信夫第二小学校、大屋小学校の校舎について、民間による産業的施設、地域の集いの場的施設など、新たな地域活性化の拠点となるよう、周辺環境のメリットも活かしながら多角的に利活用法を検討していく。

・消防車両車載トランシーバー配備事業

山間部における火事や水害などへ迅速に対応するため、確実な連絡手段であるデジタル系のハンディ型トランシーバーを消防車両に配備し、地域住民が安心して生活できるようにする。

・心が憩うふるさと空間クリーンキープ事業

過去に整備された身近な公園や憩いの場等について、地域の方々と協働しながら日頃のメンテナンスの質を向上させ、常に人が心地よく集まり、つながれる空間を維持していく。

・ふるさと川まつり in 白河たいしん (産業の振興)

平成10年8月の豪雨災害から復興した「隈戸川」の清流に親しみ、その恵みを感じ、守り、育て、かつ地域間及び世代間の交流を深めるためイベントを開催し、地域の活性化を図る。

・デジタルデバイド対策事業 (地域における情報化)

身近な場所である集会所や公民館などで「スマホ教室」を開催し、高齢者のスマートフォンの利用を支援する。

・砂防流路工整備事業 (交通施設の整備、交通手段の確保)

豪雨時の災害を未然に防止するため、頻繁に水路の溢水が発生する箇所の流末排水について流路工を整備する。

・新交通システム導入事業 (交通施設の整備、交通手段の確保)

小規模需要に対応した新たな交通システムの導入や、共助による交通の仕組みづくりなど、先進例や先端技術を研究しながら、大信地域に最適な移動手段を確保する。

・降雪障害低減化事業 (生活環境の整備)

積雪が多い特徴を踏まえ、主要道路に夜間でも認識可能な降雪監視カメラを設置するなど、積雪状況の常時把握、機動的な除雪指示ができるようハード整備を行う。

また、路面凍結箇所へ融雪剤自動散布機を設置するほか、町内会が除雪機を購入する際に一部補助を行うなど、降雪による障害を排除し、暮らしやすさを高めていく。

・ **田園町府ニュータウン公園再生事業** (生活環境の整備)

公園を、再び気軽に遊び、憩える場にするため、繁茂した草木の撤去、遊具の更新を行う。

・ **赤坂ニュータウン公園リニューアル事業** (生活環境の整備)

老朽化したすべての公園の遊具を撤去し、中心部にある公園に新たな遊具を設置する。また、その他の公園用地は、住民の憩いの空間としてベンチ等を整備し、コミュニティ形成の場として活用する。

・ **大信こども園整備事業** (子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進)

老朽化が著しい幼稚園を、改築もしくは大規模改修し、隣接する保育園と幼保一体型施設のこども園として整備する。

・ **地域子育て支援拠点事業(出張ひろば)** (子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進)

主に0歳～3歳の乳幼児を持つ親と子が気軽に集い、語り合い、交流を図ることができる場、さらにボランティアを活用しての育児相談等を行う場を継続的に開設することにより、子育て支援機能の充実を図る。

・ **大信総合運動公園体育施設等改修事業** (教育の振興)

幅広い年代の方々が、快適に運動施設を利用できるよう必要な改修を行う。

6 事業計画（後期過疎計画に向けて検討をしていく大信地域の主な事業）

大信ならではの若者・女性の定住促進

に係る事業

・大信庁舎・大信公民館複合化及び敷地有効活用事業

大信公民館の老朽化が著しいことから、大信庁舎との複合化を検討し、住民の利便性の向上、敷地の有効活用、さらにはひじりん館の誘客促進を図る。

検討に当たっては、子育て支援拠点やスケートボードパークといった若い世代が集いやすい機能の整備についても考慮していく。

地域資源のフル活用

に係る事業

・大信サイクリングコースプランニング事業

田園風景を楽しめる直線的な道路や、山間部の集落をつなぐ起伏に富む道路など、豊かなバリエーションを生かしサイクリングコースを検討する。

コース設定に当たっては景観や安全面を考慮するとともに、周辺環境を整備し、市内外の親子連れや自転車愛好家の来訪を呼び込むことで交流人口の増加を促す。

・中山義秀・文学の散歩道魅力化支援事業

芥川賞受賞作家中山義秀を顕彰する意も込め、隈戸川土手道へのあじさい植栽やその維持管理を支援することにより、日常の安らぎ、文学に思いを馳せる時間・空間を創出することで歴史文学愛好家の来訪を促す。

・大信牧場跡地利活用事業

自然に囲まれたアクティビティに豊富な地域である特徴を生かし、モトクロス、バギー、BMX等のアウトドアレジャー施設や観光・特産品開発の拠点のほか、防災・救急関連設備の整備など、幅広い視点で協議を進めていく。

豊かさを実感できるふるさとづくり

に係る事業

・ 特色ある学校づくり支援事業

自然に囲まれた環境の中で、ロボット・プログラミングなどのデジタル教育や、ゴルフ場とタイアップした体験活動、各種行事等に力を入れることにより、子どもたちの学習意欲を高めるとともに、今の時代を生き抜く力と白河を牽引する人材を育む。

また、この趣旨に共感する子育て世帯の移住につなげる。

・ 高齢者等安全運転サポート事業

公共交通の充実を図っていかなければならないが、一方で、移動手段として自家用車を手放せない高齢者が多いことも事実である。

そのため、高齢者等が安全に運転できる環境づくりも並行して推進していく。

持続可能な大信地域のまちづくり ～過疎地域の脱却と産業発展の実現を目指して～

白河市立大信中学校

私たちは、「しらかわ未来フォーラム」で、将来、この大信地域をどのようにしていきたいか、話し合いました。

大信地域の現状

僕は大信がすきだけどね。
なぜ、過疎地域なの？

大信は、国道 4 号線・国道
294号線や矢吹IC・白河
中央ICが近くにあるなど
交通アクセスが良いよ。

大信は優しい人ばかりだよ。



豊かな自然、地域の中心には隈戸川、
稲作や畑作が盛んだね。

小学校も統合され、児童生徒数も減少
している。人口流出は深刻な問題だよ
ね。

私たちが生まれた平成 13 年の大信
中の生徒数は 152 名。今年は 108
名だよ。だいぶ減ったね。

過疎地域脱却のために

いつの時代も大信地域に活力があり、住みたいと思える、更にその先も「オンリーワン」の地域として存在するため、自分たちなりに学習を通して学んだことからアイデアを提案しました。

大信地域の良いところや今現在あるもの
を活用する方法はないかな。あつ、農業
体験で人を集めるってのはどう？

大信の工業団地への誘致！

関東方面・仙台方面への流通の利
便性があるっていう交通アクセス
の良さを考えれば、長距離トラッ
ク運転手の休憩場を作るっていう
のはどう？

自然や広大な敷地を生かして、キ
ャンプ施設を今より充実させたり、
幅広い世代が使いやすいスポ
ーツ施設を充実させたり……。ど
うかな。もちろん、施設までの道
路整備が必要になるけど。



廃校になった信夫二小や大
屋小の再活用！校庭にひま
わりを植えて、巨大迷路を
作るっていうのは？

うちのおじいちゃんやおばあちゃんは温泉が好きだ
よ。食事もできる、サウナもある、地域の高齢者も利
用できる健康ランドっていうのもあるな。

なるほどね。僕らもいつかは高齢者だ。デメリットをメリッ
トに。高齢者福祉産業のモデル地域となるような取り組みは
何かないかな？

魅力的なまちづくりのために私たちが今できること

私たちが育てたひまわりから採れた種を大信地区に植えて、楽しんで
いただく「ひまわりプロジェクト」から始めよう！

今回、私たちが育った大信地域について考え、どのようにしていくか
仲間と話し合うことを通して、見慣れた田んぼ
や畑などの風景、そこで生活する人々が魅力で
あるということ、いいところがないのではな
く、見えなかった、気づけなかったというこ
とがわかりました。





大信地域振興計画

令和5年2月
白河市大信庁舎
大信地域活性化協議会